



当サイトはこちらからご覧になれます。

★メディア論 —「私」を操るもの—

メディア論は評論の重要テーマの一つです。メディア論は私たちにとって身近な題材を扱うため、一見すると読みやすい文章に思えるかもしれませんが、しかし、そこに潜む問題は大きく、私たちはしっかりとその問題と向き合わなければなりません。自分の日常を批判的に捉える姿勢はとても大切なのです。

メディアとは、情報を伝える媒体のことです。不特定多数を対象に情報を発信する**マスメディア**や、個人による情報発信が共有・拡散される**ソーシャルメディア**などがあります。マスメディアには、テレビやラジオ、新聞や雑誌などがあります。ソーシャルメディアには、ラインやインスタグラム、ツイッターやフェイスブックなどがあります。



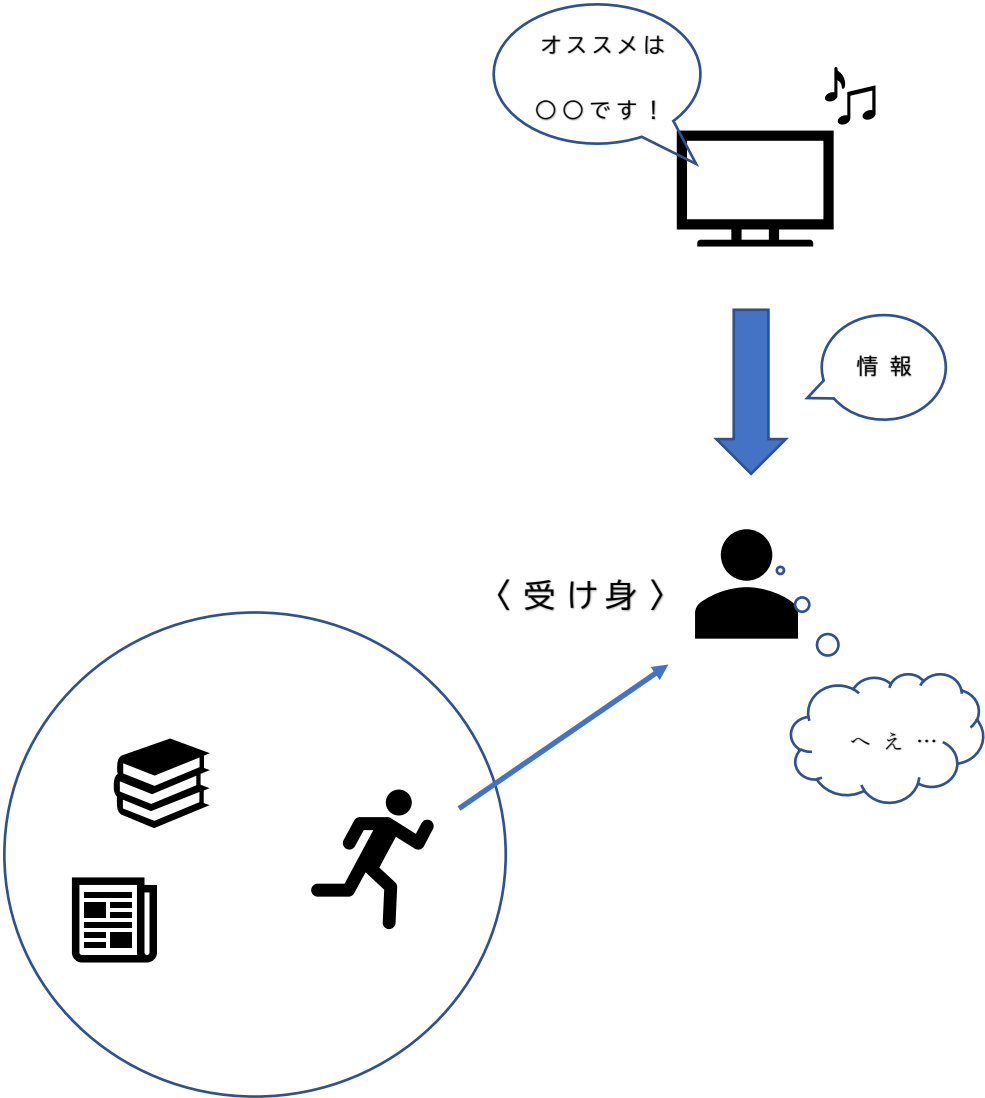
◎ 評論 キーワード

- ・メディア…情報を伝える媒体。
- ・マスメディア…不特定多数を対象に情報を発信するメディアのこと。
- ・ソーシャルメディア…個人による情報発信が共有・拡散されるメディアのこと。

※ソーシャルメディアアイコンについては

さて、一昔前までは主流のメディアは新聞や雑誌といった活字メディアでした。人々は活字を通して情報を入手していたのです。しかし、現代ではそうした活字媒体よりもテレビをはじめとする映像メディアが主流です。映像が主体になると、文字を追うことが少なくなり、読解力が低下します。直観的に分かる映像に慣らされた現代人は、文字情報をもとに、ねばり強く思考を働かせることが出来なくなってきました。そのため、思考力の低下が叫ばれるようになったのです。

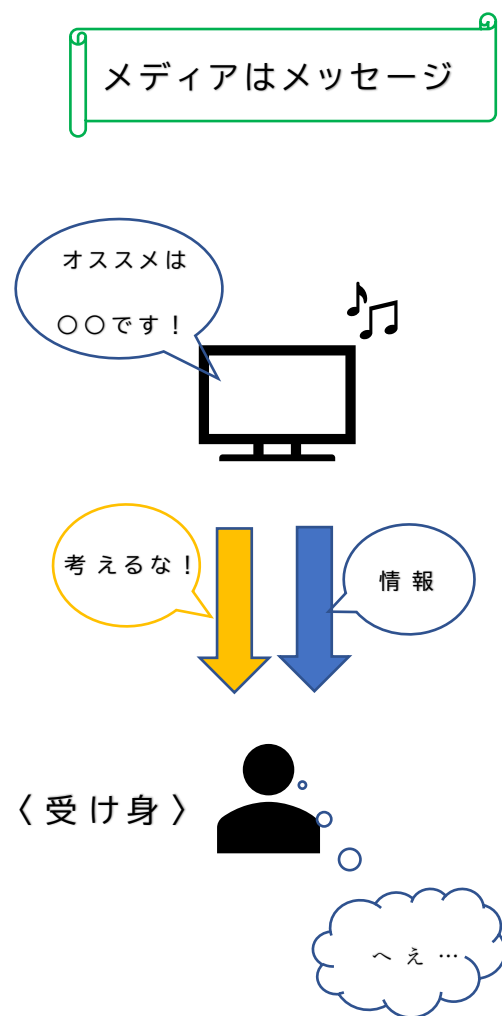
YouTubeやTikTokなど多くの利用者を誇るソーシャルメディアでは、映像やテロップ、効果音などを駆使します。そのため、見ている側は特に何も考えなくても、「ここが強調したいことなんだな」と思うわけです。映像メディアはこうして、受け身の人々をいとも簡単に誘導していくのです。こうした媒体によって自らの頭で考える**能動性**が奪われてしまっているのです。



マクルーハンという人は「メディアはメッセージ」だと言いました。メディアは情報だけを伝える物ではなく、私たちに「〇〇しろ!」というメッセージも伝えるのです。例えば、先に見た映像メディアであれば、「考えるな!」というメッセージも含まれており、私たちはそれに慣らされてしまうのです。言い換えれば、主流なメディアが変わると、人々の動き方も変わります。

現代は、情報過多の時代です。あふれかえる情報の中で、何が正しい情報なのかをきちんと選び取る力が大切です。また、発信者側に立ったとき、適切な情報を適切なやり方で発信する力も必要です。こうした能力を**メディア・リテラシー**と言います。

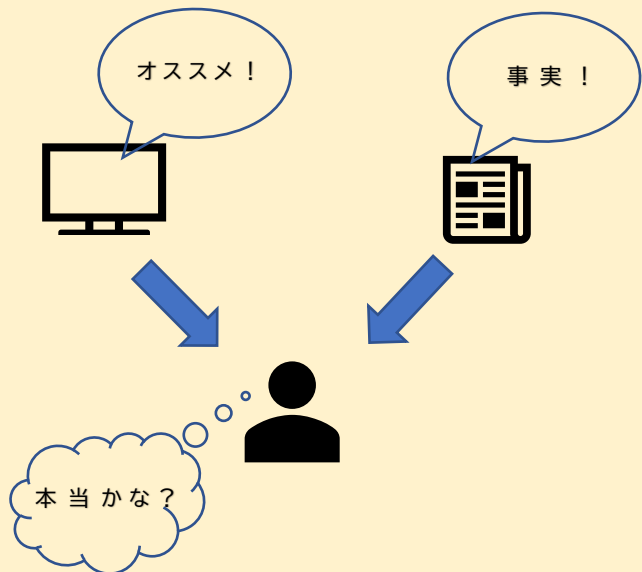
映像メディアに思考を奪われる前に、しっかりと文章を読解する力をつけておくことが何よりも大切なのです。



◎ 評論 キーワード

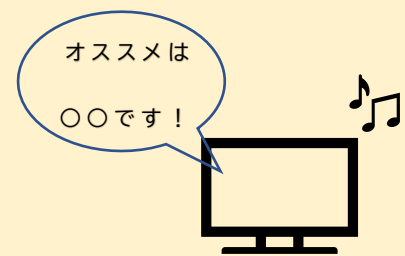
- ・活字…印刷された文字。
- ・能動性…自ら活動すること。対義語は「受動性」。
- ・メディア・リテラシー…メディアの機能を理解するとともに、

創造的に自己表現する能力。



●メディア・リテラシーをきちんと身につけよう!

メディアはメッセージ



●映像メディアによって思考力低下の危険性!

